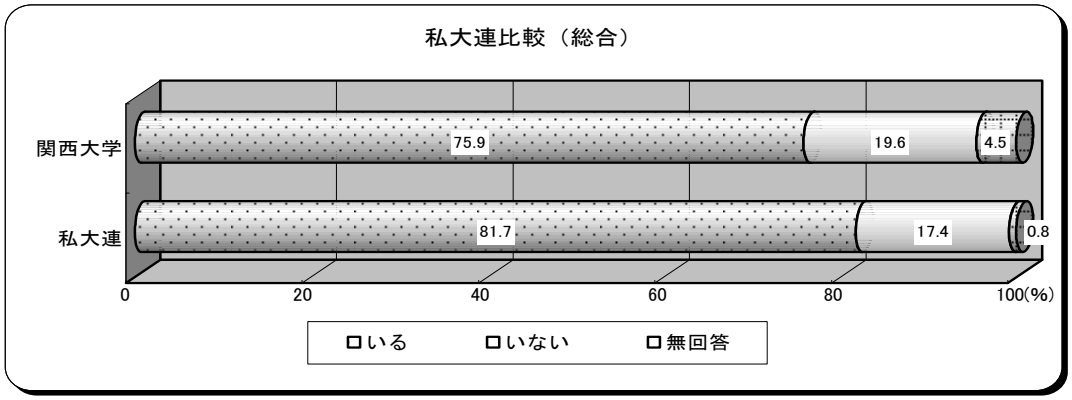
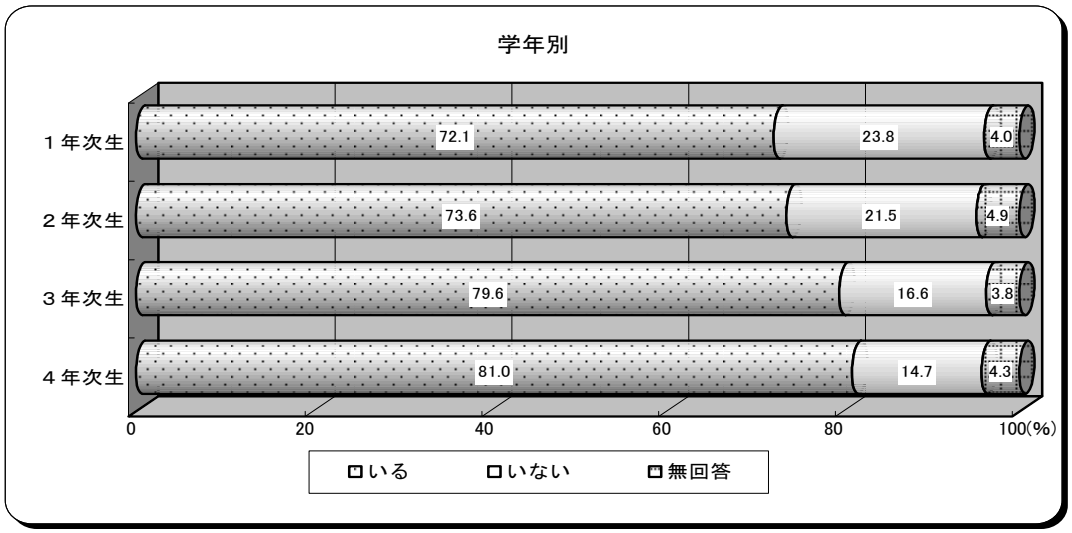
友人

問36　現在、自分のことを何でも話せる友人がいますか。





約８割の学生が悩みを話せる「友人」がいる

大学はさまざまな出会いの場である。よき師、よき書、よき友との出会いを通して学生は成長していく。生い立ちや生活環境、それぞれの価値観の異なる学生が互いに刺激を受けたり認め合いながら、また切磋琢磨しながら人間的力量を高めていくことになる。

学業におけるクラスやゼミでの出会いからクラブ、サークル、ボランティアやアルバイト（社会活動）など、さまざまな分野で活動する中で多くの出会いや苦楽を経験しながら成長していくものであるが、何でも話せる友人が「いる」と答えた学生が約8割となっており大多数の学生が心の支えとなる友人をもっていることがわかる。挫折の危機や独りよがりになりそうなとき、乗り越えたり修正できるのは信頼できる友人の力が大きく、学生を健全な方向に成長させる大切な要因であると思われる。

「いない」と答えた学生もそれぞれの活動を通して人と出逢い、信頼できる友（何でも話せる）を得て学生生活を有意義なものにしてほしいものである。

学年別にみても入学時よりも学年が進むにつれ「何でもはなせる友人がいる」答えた学生が増加しており、学年とともに協調性や社会性を高めていくことになる。

全国平均との比較では、「無回答」の数値を考慮すればほとんど差はないといえる。